

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：宮川町自治会

開催場所：宮川町公会堂

開催日時：平成 28 年 5 月 18 日（水）19 時 00 分～21 時 19 分

参加者：自治会側【地域住民の方 31 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞鍋危機管理部長、杉村地域生活部長、横田川健康福祉部長、森田病院事務部長、鈴木市長戦略部長、三浦秘書課長、田中戦略推進課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 村上宮川町自治会長あいさつ

・皆さんこんばんは。お忙しいところ、こういう機会を与えていただきありがとうございます。町内会としましては、小さな町の町内会でございますので、今日の意見交換会にですね、アンケートを出して調査をしてありますけれども、飛び入りでかなりの意見が出ると思います。いろんな要望があると思います。それから、市の広報が表彰を受けたんですね。立派なものだと思いました。全国的にも有名になったことで、改めて職員に敬意を表します。今日はこういう機会をいただきましたので、時間が許す限りお話し合いをしていただければと思います。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・宮川町の皆様こんばんは。今日こうして皆様にお目にかかるのをとても楽しみにしてきました。私、この 5 月の末に、市長に就任して 3 年になります。呼んでくださる所は毎年のように呼んでくださって、何度も伺うことがあるんですが、68 全部の自治会という、なかなか、何度も伺うところと、一度も行っていないところとありまして、そういった意味でもですね、私も、地元の皆様方から直接話を聞いて、地元の特色、特性、そして皆様のお考えを知りたい、そしてこれが、30 年度からの総合計画を作る準備に入っております。そういったところにしっかりと生かしていきたいと言ったことが一つ、そしてもう一つは、市長染谷っていうのは知っているけれども、女だつても知ってるけど、何考えてんだかと思ってる方もいらっしゃる中で、どんなことを考えているのか、そんなお話も少しさせていただきたいなと思っております。今日、人口の話から入ったのは、宮川町の人口をちょっと調べてきました。そうしましたら、宮川町はですね、世帯数が 266、これは 3 月 31 日現在のものです。人口が 604 人、65 歳以上の方が 188 人おられました。高齢化率が 31.1%、島田市の平均の高齢化率は 29.2%ですから、29.2%の島田市の平均からすると、宮川町は少しご高齢の方が多地域だつてことが一つわかります。それと、15 歳以下の子供と言われる方が 670 人中 65 人、率にして 10.8%でありました。これは、島田の中では 15 歳以下の子供は 13.8%いますから、ご高齢の方が少し多くて、子供の数が少し少ない、昔から住んでる方の多い町と言うことが、この宮川町の特徴だろうなというふうに思います。

■市政運営について

・私は、3年前に市長になる時に、実は4つの約束をして市長になったんです。一つは、公平公正で市民の声が届くまちをつくりますということをお話しました。二つ目は、行政のやっтерことがわかるように、そのプロセスが見える形にしますよということで、情報の開示とか、情報発信を約束しました。今、市がやっている公共事業の入札の結果も全部ホームページ上で、どの会社がいくら入れてどこがとったかというようなことまで全部見ていただけるようになってますし、病院の様々な、例えば設計の会社を決める、そんなものも、丸1日かけて市民に公開して決めているというようなことをやっています。で、三つ目のお約束は、広域行政の推進ということです。やっぱり今みたいに市域を越えて人が出入りして、世の中がグローバル化、多様化していく、そういう時代には島田市だけではなかなかこの地域の特性を生かした行政はできません。この志太の3市、そしてまた、静岡市を入れた中部5市2町、こういったことをベースにしてですね、広域の行政を推進しますよということをしました。これは、市長になって、その年の7月から志太の3市の焼津と藤枝に声をかけてトップ会談というのを始めるようになりました。毎年トップ会談をやっております。今年も7月にやりますが、毎年それぞれの町がこういうことを一緒にやったらどうだということで提案を持ち寄って、やれることを決めて実際推進していくというようなことをしておりますし、それから、例えば、今は消防自動車や救急車も市境のところ、藤枝がちょっと救急車で困っているときは六合から出ますし、六合の救急車が出払っちゃってる時は藤枝から来て手伝ってくれますし、そういった連携もきちっと取れています。四つ目は、財政の健全化を目指しますというお話をしました、島田市は財政的になかなか厳しい状況を引き継いでおります。今、経常収支比率って言って家計に例えるならば、家賃だとか、学費だとか、保険料だとか、車の維持管理とか、決まって出て行くお金がありますよね。この決まって出て行くお金が、約90%なんです。そうすると、今年一般会計の予算は363億3300万円という予算を立てたんですけれども、企業会計や特別会計を合わせると760億円ですけれども、この一般会計のうちの9割が出所が決まってるって言ったら、その年、自主財源として投資的経費に使えるお金は33億しかないっていう話ですよ。大変にこれは、昔からの公債、いわゆる起債してお金を借りてるものの、返済がずっと繋がってくるから、そう簡単になかなか改善はできないし、他市だってせいぜい85~92・93までの間に収まっていると思います。でもやっぱりこういった状況の中で、今世の中は土地も下がって、人口も減って、給料も上がっていかない、要するに右肩上がりではなくなってきているんですよ。で、高齢化はどんどん進んでいく、ということは、税収も、将来的には働く人が少なくなるってことは減っていくわけですよ。そしたら、例えば、昔の市長さんはですね、自分の任期の間に、これやったあれやったって見せて、これを作ったんだ、あれをやったんだ、って言って借金を残しても、次の時代が、もっと人口が増えて税収が上がっていくんだったら別にその借金は、返せるんですよ。でもこれからの時代はそうでは無いんです。だとしたら、私は市長の役割っていうのは、10年先の島田に責任を負うために、今何を判断するのかということなんだと思っているんです。今、自分の任期の時だけよければいい、っていう考えは持っていない。確かに、そのために、もっと目立つことやれっていう方も大勢いらっしゃる。でも、それをやって、次の世代の人たちが自分たちの考えで新しいことができる町じゃなかったら魅力的な町にはならない、と思っています。市をつないでいきたいという、そういう思いを一番強く持っているところです。今、島田の全体の人口は約10万人です。人口が減少している中で、世帯数はどんどん伸びています。私が市長になったときは34,500くらいだったと思うんですけれども、この3月の末で、36,950世帯ありました。どんどん核家族化している。で、高齢者の一人暮らしが、実は増えています。高齢者の一人暮らし、高齢者だけの世帯、それから、未婚かっていうか、一生結婚しない人も増えてきています。晩

婚化も増えてきています。そうした方たち、そして特に高齢者方の中には年金だけで暮らしている方、そういう方も増えているんです。ここに住んでいる人たちの、命と暮らしをしっかりと守っていくというのが、行政のベースだと思っております。そのベースを、しっかりと、医療も介護も福祉も教育も子育ても、しっかりとやっていくために、じゃあ次の手をどうするんだということで、今年度は特に稼ぐ力を作っていくということで、大規模な開発等の計画を持っているところです。65歳以上の高齢化率は29.2%ですから、29,200人いるっていうことですよ。その中で、70歳から79歳くらいまでの方が合わせて11,400人ほどおられます。それから65歳から69歳、ですから、70歳前の人たちが8,200人くらい、今はまだ皆さん元気です。好きなことやれるし、好きなところに行けるし、でも、あと10年先の島田のことを考えると、やっぱり、ここは今、すごく手を打っていかなくちゃいけないところでありまして、まずとにかく健康で長生きできること、これが第1です。だから、健康で長生きできるように、様々な施策をうって、高齢者の健康寿命を長くする、そしてもう一つは、介護の流れ、或いは医療の流れがですね、在宅へ在宅へという流れにきていますから、この4月から24時間訪問看護ステーションというのを始めました。在宅で療養するといいますかね、そういう方たちも、もし何か事があれば24時間お医者さんの指示書に従って医療行為をする看護師をご自宅まで送りますよということをこの4月からやっています。8人のナースで24時間電話受け付けをしてやっているんですがね、こうした時代の中で、どういうふうにこれから稼げる町を作り、そして、ここに住んでる人が安心して夢や希望を語れる町を作っていくのか、ということが私のこれからの仕事です。私は最初の4年間、申しわけありませんけれども、島田市という大きな塊を方向転換していく、方向転換していくってね、とっても時間と労力のかかることです。種まきをしっかりとさせてもらいたい、と思っています。この種まきの上に、しっかりと育て、そして刈り取るという、段階まで行くその最初の段階を私自身がしているという考えでいるところです。医療の話もしましたので、皆さんの関心があるところで病院の話をしていただきたいなと思います。

■市民病院について

・病院はですね、この3月に設計会社を決めるプロポーザルといって、公開のプレゼンテーション、こういう病院建設が良いと思いますという提案を、1社あたり1時間でしてもらいました。6社の提案をいただいて、市民の皆様約200人の方にも聞いていただいて設計会社が決まりました。その設計会社と、今は毎週コンタクトを取りながら今年中にその設計を仕上げ、来年は、詳細設計をして、そしてその次の30年度からは、いよいよ建設にかかるということで、32年度の末頃を完成の目途としています。今、実は市民病院に行かれる方はわかると思いますが、東側の駐車場のところでボーリングの調査をしています。今8ヶ所ほどボーリング調査をしています。これまでも35ヶ所ほど今の病院を建てるときもそうですけれども、過去にしています。そういったものと合わせて地盤の調査をしているところです。前の選挙の時にですね、町中に病院を移転するという話のときに、今の病院では地盤が弱いから液状化するからって言う話があったと思うんですね。議会からもやっぱりそのことは随分聞かれています。しかし、私もボーリングの結果の土を見ましたけれども、粘土層です。粘土層に少し砂がまじってますけれども、液状化っていうのは砂地に水が含まれて液状化するわけです。ですから、県の第四次被害想定でも、地盤は弱いけれども液状化する危険なところとはなっていません。岩盤までの距離があるので、杭打ちをしっかりとしないといけない。今、いろんな工法があります。その工法は、設計の会社もいろいろと提案してくれました。技術的には何ら問題の無いことだと私は思っています。東側の駐車場のあ

なりに、今の形だと T 字型になるのかちょっとわかりませんが、7 階建て、或いは 8 階建ての病院を作って屋上にはヘリポートを置くということでありま
す。ベット数は 445 床、診療科目は今とほぼ同じ、精神科がもう長く平成 19 年から休診しておりますが、この精神科が、医師の確保が取れそうにないとい
うことで、閉鎖するかもしれませんが、他は、診療科目は今のままということです。実は、療養病床を減らしました。そのところをやはり皆さんにご心
配をいただいているところでもあります。しかし、団塊の世代の方たちがみんな後期高齢者になる年が 2025 年なんです。これに合わせて、国は大きな医療
制度改革をやろうとしています。どういう改革かっていうと、今でも毎年 1 兆円ずつ医療費は伸びている。このままじゃ国がもたないです。国もすごい借
金です。少なくとも、例えば道路とか、そういった建設に回ってくる補助金は、もう平成 10 年代の補助金の 3 分の 1 しか回ってこないほど、今は国もお金
がない。そうした中で、医療費がどんどん上がっていく。これを何とか抑制するためには医療費の値上げと共に今まで病院へ、施設へという流れを、在宅
へという流れに戻したい。地域で、住み慣れた場所で、最期まで送れるような形にしたいという、そういう大きな在宅へという流れがある。そうした中で、
実はもう一つ、病院そのものを厚生労働省、国の方は機能別にしたいなっていう考え方を持っています。すなわち、ここは、救急の中でも特別 3 次医療を
するような病院、それから、島田市民病院のような救急病院、そして、回復期の病院、リハビリテーションの病院、そして、療養型の病院っていうふうに、
病院を丸ごと機能別にして患者さんを移動しようという、そういう発想を今、国の方は持っています。ただ、私は、これはうまくいくと思えないです。と
いうのは、患者さんはね、例えば胃が悪くて入院していても、腰も痛いしいろいろなところにかかっているわけですよ。ですから、なかなか病院を丸ご
と機能別ってのは難しいだろうけれども、でもだんだんと病院の得意分野を生かして、例えばうちは循環器が得意だとか、呼吸器が得意とかっていうところ
で志太の患者さんたちが、そういうところで診てもらいたい人はうちの方に来るとか、あるいは産婦人科だとか、婦人科の病院だと焼津がいいよって言
えば焼津に行くとかっていう形での連携は、これからも進んでいくと思いますけれども、やはり島田市の市民病院が急性期の病院として特化してやってい
くということを今回決めました。そうした中で、急性期の病院というのは今、患者さん 7 人に対して看護師 1 人ということをやっています。療養型の病床
っていうのは患者さん 15 人に対して看護師が 1 人とか患者さん 13 人に対して看護師が 1 人とかっていう体制でそれをまぜるっていう混合にすることが、
国の中の急性期の病院の指定を受けるためにはなかなか難しいことでもあります。そうした中で市民病院は市民の皆さんのよりどころになる、急性期の病院
を目指すんだということで療養病床は作らずに一般病床の中で次に行く病院が決まるまで診て行こうと。ですから、今までとやっていることは同じです。
ただ、療養病床っていう病床を持たないということになりました。この病院の問題を考えると、やっぱりもう一つ課題なのは市内の診療所、開院され
ている先生方の高齢化の問題があります。今でも往診してくださる先生は限られていますし、あと 5 年経ったらそのうち何人の方が往診に応じていただけ
るかっていうような状況なんです。ですからやはり市民病院から島田市内で開院する先生方を増やしたいし、よそからでもいいから島田で開業してくれる
先生方を増やしていきたいなというふうに思っています。特に産婦人科と小児科については、大変頭を悩ませている、もっと欲しいところでもあります。今、
旧国 1 の大井川橋の手前にリバティという小児科ができましたね。あの先生は藤枝総合病院の先生です。藤枝ではなくて島田に開院をしてくれました。で
すからそういう先生方をこれからも増やしていかないとならないし、病診の連携をきちっととっていかないといけないなと思っています。皆さんのところ
に広報しまだ今月配られたでしょうか。それにいつも「ちょうしんき」っていうのが 1 枚入ってますね。「ちょうしんき」の裏側に紹介状が必要な診療科
目とそうでない診療科目が載っています。紹介状が欲しい、初診の予約が必要ですよっていうのは血液内科、糖尿病内分泌内科、神経内科、腎臓内科、呼

吸器内科、整形外科、口腔外科、放射線科、心療内科というようなところで、ほとんどの科が実は、紹介状なしでも診ています。紹介状がいるところの診療科でも、すでにお見えになった患者さんにはですね、事業管理者が診ています。ですから、今までは紹介状がないと市民病院が診てくれないんだっていうのが行き届いちゃって、紹介状がなくても診てくれる診療科目っていうのがずっと多いです。ですから一度ご自宅に配られる広報しまだの中に入りますのでぜひ見てください。ただ、ホームドクターっていうか、かかりつけ医の紹介状なしに総合病院にかかった時に初診料っていうのがかかります。これは、国の法律の中でこういう制度になっていますので、少しお金がかかることはご了承をいただきたいなと思います。国は病診の連携と同時にかかりつけ医と救急医の、いざとなった時に行く病院をしっかりと分けて救急医療の方を守って行こうという、そういう考え方を持っていますので、そのあたりのところをご理解いただけたらありがたいなというふうに思います。

大規模災害について

・熊本の地震については皆様もよくご存知だと思います。亡くなられた方の大半が家の下敷きになって亡くなられました。島田市としては発災直後から毛布を送ったり、今でも職員を1週間交代でずっと被災地に送っております。危機管理監以下職員が視察にも行き、そして医療チーム等も送っていますが、そうした報告、それから現場の実情なんかを見るときにですね、今回の地震災害の中でやっぱり家がつぶれて死んじゃうんじゃないか、つぶれちゃうんじゃないかって心配される方も多だろうというふうに思いました。実は島田市も耐震補強の補助金を出しております。耐震診断して耐震補強となれば100万200万というお金がかかる。70万くらいの補助金をもらっても、やっぱり自腹で50万100万は大きいからもう来たら来ただよって言う方も実はいらっしやいます。でも、守れる命はとにかく1人でもしっかり守るために、新たな政策的なことをちょっと考えまして、6月の補正にあげようと思っております。一つは、昭和56年以前に建てられたお宅に住んでいる方が無料の耐震診断を受けていただいて、耐震性がないよということであれば、今まで高齢者が70万円だった補助金を80万円に、そして65歳以下の方たちの補助金を60万円から70万円に引き上げて、県内の23市の中では一番多い補助金にします。それと同時に、それでもやっぱり、あと何十万か出さないといけない中では大変だって方もおられると思いますので、家の中に入れる屋内シェルターという、ベット二つ分とあとは食料品を置けるくらいの大きさのものです。四畳半の中に入れてもらうような大きさになります。これが大体30万円前後であります。30万円を市の方で持ちたいと思っております。家の畳の下の補強とかそういうのは多少必要かもしれませんが、そんなに大きな負担なくほぼ全額に近いお金で屋内シェルターをやりたいと、これは年齢制限なしで、若い方でも昭和56年よりも前の住宅に住んでいる方にはお出ししたいと思っております。もう一つは耐震ベットって言って、ベットの四隅に柱をつけて天井をつけて、寝てる間はとにかく家がつぶれても人は大丈夫だというもの、これは20万円の補助をしたいと思っておりますが、この三点セットで6月の補正にかけたいと思っております。6月の末に議決をいただければ、7月の初めから募集をかけたいと思っておりますので、ぜひご関心のある方は都市基盤部あるいは危機管理部の方にお問い合わせをいただければなと思っております。できれば、その耐震シェルターを市役所のどこかに展示をしたいなと、どんなものか見ていただかないと皆さんもイメージがつかないと思いますので展示できる場所をとということで少し今話を進めているところです。またこういったものも見ていただきながらですね、自分の命をしっかりと守ることと、いざというときの準備をしっかりしてもらいたいなと思います。熊本がなぜあんなに大変かっていえば、何も準備をしてなかったからです。まさか地震が来

ると思わなかったというところです。仮設の住宅を造る場所さえも決めてなかったです。島田は、仮設を造る場所もすべて決まっておりますし、運搬あるいは拠点も全部決まっています。災害時において、道路のここからここまではどの土建会社が責任をもって復旧を急ぐかというようなことも全部決めてあります。しかし、それでもなお、いざ発災となれば、計画通りにはいかないし、いろんなことが起こると思います。まず自分の命は自分が守るということをしっかり考えていただきたいと思います。宮川町の被害想定というものをお話させていただきたいと思いますが、中心市街地、家が建て込んでいて古い家並みが多いところは火災が発生する可能性がまず一つあります。火災の発生を防ぐためには、もちろん防火用水とか、消防団だとか、我々の方の準備も必要ですけれども、皆さん方も、まずブレーカーを落とすこと、それからガスの元栓を開けてから逃げることで、だいたい漏電とかそういうことが火災の発生の原因になりますから、まず自分の家から火を出さないということも心がけていただきたい大事なことであります。この宮川町ですね、重傷者の想定が4人という数字になっております。4人でも10人でもどうしてこういう数字を出すのかということかもしれませんが、人口に対して何%の程度の被害想定が出るということを、ここの宮川町の人口に掛けるという、おおよその数字だと思ってください。それから、死者は、1人ということです。ほとんど亡くられる方はいらっしやらないだろうというふうには思いますが、それでも、けがをされる方も多いと思います。そして自宅が住めない状態、壊れるとか、倒壊する危険があるとかで住めなくなって避難所に入らなければいけないと想定される人数は117人という数字が出ています。ですから、人口が670人ですから、6人に1人というぐらいの形でしょうか。その方たちが避難所に入っていたかかないといけないということでもあります。ご質問の中には大規模な災害が起これば、水道管も破裂するだろうし、緊急遮断弁が落ちて消火栓も使えなくなるだろうから、火を消せなくなるじゃないかと、防火水槽をやっぱり地域ごと作ったらいいんじゃないかというご提案をいただきました。確かに昔、防火水槽があつて金網が貼ってあつたりしましたが、なかなか今は場所がなくてできないんですね。実際には地下式の防火水槽というのが、公共施設やら、いろんなところに装備されております。この地下式の防火水槽というのは市街地においてはですけれども、この道路の下にいろんな電線とかガスの配管だとか水道管だとか、いろんなものが入ってて、中心市街地の中ではなかなか難しい。共同溝ってのは張り巡らされています。近年は主に郊外の方で、そういった地下式の防火水槽の整備をしているんです。ぜひこの地域にも適当な場所があるということでしたら、情報提供をお願いしたいと思います。もう一つ、福祉避難所がないじゃないかというようなお話もいただきました。しかし、昨年も四つほど新たに避難所の協定を結んでおまして、今、島田市内で19の福祉避難所を準備しております。19の避難所の内訳はですね、高齢者の福祉施設が15施設、障害者の福祉施設が2施設、児童福祉施設が2施設合わせて19の福祉避難所というものを用意しております。これは、隣の藤枝はうちよりも人口が多いですけれども、ずっと数が少なくて、藤枝の市長さんからは福祉避難所を一緒にやらせてくれないか、使わせてくれないかっていう話が内々あるくらい、実は、島田は志太3市の中でも準備というのは進んでいるというふうに思っております。それでも、鹿児島を見ればですね、福祉避難所がいっぱいになっているような状況がありますので、これで十分だと思っておりますので、これからも増やして参りますが、今のところそういう状況になっております。名前も聞いてみたいですか？高齢者福祉施設では永福荘、本田山荘、みどりの園、とこは、あすか、エコトープ、かなや、ほたるの丘、アポロン、ぎんもくせい、グループホーム汽笛、クオリティリビングおかりや、さくら、こういったところと結んでいます。障害者の施設としては垂穂寮、うえるびーなどと結んでいます。児童福祉施設は神谷城保育園、五和保育園と協定を結んでいるところであります。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■避難所について</p> <p>避難所について第2小学校から第1中学校に集約したということについて、患者の動線から言うと、第1中学校へ宮川町から行って、それから市民病院へ行くなんてバカな話じゃないかと。病院まで一直線の、はなみずきへ宮川町は行きたいなと市へ申し入れしたい。地理的条件から見て、危機管理部ができたとか言うけれども、その人たちがどういう認識でいるかというのを知りたいです。医師が少ないからどこかへ集約しないといけないのは事実なんです、市民病院の位置と動線としてはどこが一番いいのか考えるのが一番合理的ではないのですか。それをあえて西へ行って東へ行くっていうのはそのセンスがおかしいじゃないんですか。</p> <p>当町内会では、実際にここから患者を想定して市民病院まで担架で行ったんですよ。担架は4人では無理です。担架は6人でやらなきゃだめです。それを三組作って途中交代しながら行って市民病院まで1時間ですよ。さっきの想定患者数が出たら20人以上の体制を整えないと患者の搬送すらできない。一中へ行くと市民病院へ行くのと同じぐらいかかる。それからさらに市民病院へ行けって言われたらとてもできない。やっぱりこれは危機管理の方で動線を見て、通り一遍に1中に集めるのではなく考えてほしい。</p>	<p>〈眞部危機管理部長より回答〉</p> <p>●どういうふうに救護所を配置するかというのは、そこでどのくらいの患者数が発生するのかっていうのがまずあります。動線も大事ですけども、皆さんがご心配されている救護所から病院にですね、重傷者を皆さんに運んでくださいというのはおそらくほとんどないです。瀕死の重傷者を皆さんに運んでくださいなんて言うはずがありません。基本的に皆さんにお願いしたいのは、とにかく1人で救護所に行けない方を、リヤカーでも何でも、とにかく一番近くの救護所に運んでくださいと、そこでトリアージをしてこれは病院に運ばないといけないなとなったら、皆さんに運んでくださいなんて絶対言いません。基本的に救護所をなぜ置くかという、市民病院は島田市だけの病院ではないのです。県の災害拠点病院で他のところからも患者さんがいっぱい来ます。そうするとさばききれないのです。それを、救護所で済ませられる人は救護所で済ませたい、本当に助けなきゃいけない人を病院に送る。市民病院でも治療できない人はヘリで空港へ運んで、空港からよその病院に運ぶという流れです。皆さんにぜひお願いしたいのは、とりあえずお近くの救護所まで一番近いルートで運んでいただければ結構です。</p>
1-2	<p>■避難所について</p> <p>それは説明が違う。二小学区（避難所運営会議）に来て説明して欲しい。市当局の人はそんなこと言わないんですよ。あなた（危機管理部長）の言っていることが下まで浸透していない。2小の避難所担当の市の職員が知ってるかどうかなんです。避難所運営委員会というのがあって5月に運営委員会を開きなさいというのを防災委員長会議で言っているんです。その時に出てくるのは2小の避難所担当職員なんです。出てきた職員が一切言っていないんです。避難所運営委員会に出てくる職員に、今あなたが言ったことをしっかりとレクチャーしておいてください。</p>	<p>●どこで人が出るかというのもあるけれども、いざ本当にけがをして具合が悪かったら一番近くのところに連れて行くし、そこが断るなんてはずがないです。職員への徹底が足りなかったということですから、しっかりと徹底するように私の方から指導します。</p>

<p>2-1</p>	<p>■市の施策について 市長は、新しい方策を持って方向転換をしたいということですが、具体的に何かありますか。</p>	<p>●地域の活力を維持するために変えていかなければいけないことっていくつかあります。例えば、皆さん方の町内会の組織でさえも、だんだんと役員をやる人がいなくなる、町内会長もなかなか大変、川ざらいは、うちは2人とも高齢だからちょっと出て行けない、というふうにだんだんとなっていくというのが目に見えているわけです。だとしたら、もう少し自治会を大きな形にしていくことも一つの方法かもしれません。それから若い人たちにとって魅力的な島田を作るっていうことは、住んでもらうためには、まず仕事と住むところです。稼ぐ力のところなんです。教育とか子育て支援とかそういうところをしっかりと充実させることが、よそよりも島田を選んでもらえることになるとと思います。</p>
<p>2-2</p>	<p>■市の施策について やっていることに統合性というか繋がりが無い。例えば、島田には学園がない。学園を造ることによって、学生を増やすとか。全体的に、ミニマムではなく、マックス的な考え方がないのでは。</p>	<p>●今、大学の話が出ましたけれども、大学誘致というのがここに住民たちを増やす策には、直接的にはなかなか結びつかないだろうなと思っています。むしろ、小中一貫あるいは、理想的に言えば中高一貫、こういった学校を増やしていく、誘致していくっていうことのほうが政策的にはいい。そして、基本になるのは、やはり小中一貫の学校を作り、子供にとって最善の教育のあり方ということのしっかりそろえる中で、小中一貫と、そこに特色ある教育をしていくことです。特色ある教育っていうのは、例えば英語教育ならネイティブの言葉を話す人を、その小中学校にはいつもいる。子どもたちは小学校から中学校まできちっと英語の授業を受けられる、あるいは、ITに特化した授業ができる。こういった教育の内容を変えながら教育の現場を変えていく必要はあると思っています。</p> <p>例えば病院をここに作りますとか、ここに巨大なものを作りますとか、大学を誘致しますとか、それはある意味わかりやすいし、見えやすい。だけど、今そういう大きなものを掲げて、私はみんなで夢を持つことはすごい大事なことだと思っています。けども、静岡空港を作りたいっていうことで、地元の人たちはすごく燃えたし、20数年間運動してここに空港ができたわけですね。でも、これからの時代を見るときに、私は今、金谷周辺の大規模開発とか、そういったことをやろうとしています。みんなで見る夢を作ることがなかなか難しい時代になってきているなということを思っています。</p> <p>今、空港新駅の話もあります。新駅ができれば地域の振興に繋がると思っているけれども、2020年までという知事の話の中で、それがオリンピック、それから防災ということしかまだお話されてない。このことが、どれだけ地域の振興に繋がっていくのかという面でも話ができた時、やっぱり島田は、官民そろって空港新駅なら空港新駅を造るための盛り上げをしていくべきだと思っていて、なかなか今、旗を振っても現実的に動けるような状況ではないから、私は今それをしていませんけれども、私は、この島田という町について、皆さんはいろ</p>

		<p>んなことをおしゃるけれども、大きく変わる最先端のところにいると思っています。</p> <p>よく、藤枝はこの頃活気がある、島田は商店街がさびれちゃったじゃないかって言いますよね。でも、昔、島田がすごく活気があったとき、藤枝はそうはいかなかったわけですよ。時代の移り変わりの中で、今、静岡との距離であるとか、様々な要因もあって、特に、土地利用だとか、農振だとか、島田は農業が良かった時は全部かけてきましたから、なかなか、新たな土地開発が難しい。その、農業がよかった時はすごくよかったわけです。だけど、新たな時代にはそれが足かせになっています。商店街だって、さびれているって言うけれども、でも、みんな生活に困ってない。貸し出して、新たなことをやろうと言う気持ちもあまりない。じゃあ、投資して自分で新たな事業をするかっていうと、もう年だし、それもなってしまう。でも、食べていけるんですよ。ある意味、豊かさの象徴なんですよ。本当に困ってたら、これは、なんとかしたって動き出すのです。やっぱり、リスクを背負って動き出す若い人たちを作っていくとある意味、町の中は難しいところがあります。でも、その計画を、今年と来年をかけて行政がやったから、全部人が戻るなんてことはありえない。だけど、元気な店を増やすことで全体につなげていくことはできるし、若い人たちにとって魅力的な町も作っていくだろうと思います。そういったことをしっかりやって行こうとしているわけで、もっと大きなビジョンを抱け、もっとみんなが乗れる夢を見せろ、っていうことですが、みんなが見れる大きな夢を見せることが、なかなか難しい時代だということが一つ、それから、大風呂敷を広げて、やれないことまで言うつもりは無いです。やれることをしっかりと伝えていきたいと思っています。ですから、今やろうとしていることを一生懸命やっていきたいとも思っています。</p>
3-1	<p>■火災について</p> <p>ここは、火が出ると、もう宮川町だけの問題ではないのです。若松町で火が出ても、大井町で火が出ても、ダラダラ類焼してしまう。火災という問題は、今回の熊本では、たまたま出なかったけれども、これは、1町内の問題だけではなくて、木枯らしが吹く夕暮れ時なんて言ったらどうしようもないですよ。</p>	<p>●風が強いときとか、そういう時は延焼の危険性がありますし、本当に季節によって風向きによって延焼の方向は大きく変わりますけれども、この旧市街地の古い家が建込んでいるところは、火災の可能性があるということで、先程お話したように、火を出さない努力が一つ、しかし、それでも火が出ってしまった最悪の場合は、このあたりの方たちは大井川の緑地に非難をしていただくということになっていると思います。</p>
3-2	<p>■火災について</p> <p>いくら耐震化住宅を作っても、みんな燃えちゃうよってことになるんです。</p> <p>先程から、耐震化に重点を置くと、それは大変結構なことな</p>	<p>●火災が起こるといことは、ハザードマップの中でも場所によっては真っ赤になっている、真っ赤というのは、火災が起こればひどく延焼してしまう可能性があるという地域に指定もされているところですから、火災の発生は十分被害想定の中にあります。じゃあ、ゼロにする努力っていうのは、火災を出さない</p>

	<p>んですけれども、火が出たら、いくら耐震しても全部消えちゃうんです。それをどうするかということ。たまたま危機管理部長も来ているということだから、話を聞きたいんですけれども、その認識があって初めて次の手というものが出てくるんです。</p>	<p>努力もそうですし、耐震性能を上げていくっていうのも火災を出さない一つの方法であります。大きな災害時に119番しても110番しても、ほとんど消防署も救急車も来ない。自分たちの力で、まずは初期消火をやらなければならないっていうことは、皆さんもご理解がいただけることだと思います。</p> <p>緑地帯を設けたり、道路を遮断したりということで、燃え広がっていくのを防ぐことも都市計画の中にはあります。</p>
3-3	<p>■火災について</p> <p>防災訓練で可搬ポンプをやっているけれども、可搬ポンプでどれだけの火が消せますか。もっと地に着いた対策というのを考えないといけません。</p> <p>また、火が出たならば、このあたりに延焼してしまうという事実をもっと広報で知らせるべきです。宮川町だけで片付く問題ではない。広域に関する事だから、市としての政策が必要ではないかということを行っているんです。</p> <p>もう一つ提案したいのは、電気もなくなる、電話も通じない、どこから火が出るかわからない。火が出たよということを電気がなくても何もなくても伝えてくれる手だけがあるんです。火災報知器です。電気がなくても鳴ってくれるんですよ。その音があれば、あとは消火器で消せるんです。火災報知機は消防署の管轄で、防災は関知してないんですね。ですので、防災対策には火災報知器が入ってないんです。</p>	<p>●それは、自主防の委員とか、そういった人たちを通してお話はしています。ハザードマップも出しています。火災が怖いということは、私も行く先々の被害想定の話をしています。皆さんに、火災の怖さが十分に知れ渡っていないということですよ。</p> <p>(管轄の話については) 行政の課題を鋭く突いてくださっていると思います。いわゆる、縦割りでやってたらだめだと。私は、縦割りでではもう、これからの世の中は通じないと言っています。</p>
4	<p>■大規模災害について</p> <p>ここは、考えてみると、裏に宮川という大きな川があって三面コンクリートの水路がある。これは、立派な防火用の水槽になるという、そういう知恵を出してもらいたい。市内の適所に防火水槽を計画的に整備して欲しい。</p> <p>避難勧告を受けるような、例えば去年もありました大雨、避難勧告が出たんですけれども、どうしていいかわからない。恒常的に床下浸水してしまうところがある。それは、市に改善をお願いして何ヶ所かやってきました。ところが、元凶はこの善太夫道路、この道路の横断が全部暗渠で、特にサイフォンになっているところがある。水が飲めたくたって飲めないっていうことで、上流へバックウォーターして結局家に浸水してしまうということです。いくら家の前の水路を直しても問題があるということです。</p>	<p>●この地域が、台風だとか大雨のときに、床下浸水ということ、あるいは、部分的に冠水するということは、私も調べてきました。いわゆる大善寺線、県道島田川根線ですよね、このところの水路横断部分のサイフォンの所ですけれども、そういう冠水するようなことがたびたび起こるということを知っていますので、そこについては浚渫、いわゆる土砂がたまらないようにしっかりそれを取っていくということ、土木管理課の方にやらせるようにしています。定期的に浚渫をすることで、排水能力をきちっと維持できるように、これまでもずっとやってきたし、冠水するという危険に対して、この大善寺線の水路横断部分のサイフォンのことについて、こちらもよくわかっていて、常に気にかけてみていきたいと思っています。</p> <p>浚渫は、定期的に毎年やっております。本当に冠水してしまう、あるいは水が出て大雨のたびにそういうことになるのであれば、別なところに調整池を造るとか、そういったことも考えていかなければならない。ですから、構造的に無理だなんて話が出るようであれば、私の方でちょっと調べさせてください。</p>

	<p>この要因は何かという、例えばゆたか保育園ができて、そこに立派な水路ができています。ところが、宮川町に入ったら旧態依然の戦前の頃からと同じような水路、それって、開発がうまくないと思うんですよね。だから、上流部の遊水地的なところが埋まってしまったならば、当然一時的な水が出てくる。そういうところはですね、浚渫ももっと早めにやらなければならない。</p> <p>定期的に浚渫をしても、構造的にいくら浚渫したって無理なんですよ。</p>	<p>※土木管理課へ対応を依頼。</p>
<p>5</p>	<p>■空き家対策等について</p> <p>国では「住生活基本計画案」を示しましたね、新聞にも出ていました。そうすると、これからは有効活用や計画的な撤去を進めるということは当然あると思いますけれども、私の近所にも6件くらい空き家ができた。それを取れっていう意味じゃなくて、そういうものへの対策は市としてどういうお考えですか。</p>	<p>●昨年の5月に、空き家等対策特別措置法というのができました。これは、いわゆる崩れかけていて、もう1年以上誰も住んでいない、周囲に危険が及ぶ、あるいは犯罪の温床になりかねないというような空き家に対しては、行政が強制的にそれを撤去することができますよというような法律であります。今島田は、この1年をかけて、そういった特定空き家が、どこにあるか、どのくらい放置されているかということ、自治会やご近所の皆さんがたにご協力をいただきながら調べています。これが、確定的に1年以上誰も住んでなくて、危険が及ぶ家屋であるということになれば、その持ち主に撤去解体の指導をさせてもらいます。それでもなお、全く関知しないで放っておいて被害が及ぶ恐れがあるということであれば、行政がそれを撤去することもできます。そのお金を、家主さんに請求します。しかし、全国的に先進的にやっているところを見ますと、ほとんど払いません。結局、市民の税金でそういう家を片付けるっていう話になります。ですから、それを条例化したところは逆に、市民の皆さんから、自分たちの税金で何で個人の財産を片付けるんだと言うクレームも多く出てですね、これは一長一短の条例です。もう一つ私が課題だと思っているのは、地元に住んでいる人はそんなに空き家にしておきません。ここに住んでないんです。だから問題。これまでは、上物が建っていれば、家とみなして固定資産税が更地の6分の1でした。しかし、今度、特定空き家と認定されると、家があっても更地と同じだけ税金がかかることとなりました。それも併せて今、調整しているところです。しかし、そうは言っても空き家といっても、その土地と建物は個人のもので、個人の所有ですから、所有者の債務でありますから、我々は、その最後の権限はあります。あるけれども、そこをどこまで行使するかっていうことは、特定空き家の認定を進めると同時に、29年度までにそれにどう対策していくかということ、市として決めていく段階です。一方で、市内の空き家のポータルサイトっていうのをやっています。市内の不動産業者さんとか、空き家を扱う方たちの情報を一元化して、市のホームページの中で、島田に</p>

		<p>は、こういう空き家があります、よろしかったら住んでくださいというようなものも全体的にやっています。それから、中山間地の空き家、例えば、川根の空き家のようなところは、空き家をご紹介すると同時に、そこに越してきた人たちをコミュニティで面倒を見る、そういうお世話もセットで移住定住を目指しています。だから、町の中の空き家と中山間地の空き家は、ちょっと空き家の種類が違うということの中で、私としましては、今、特定空き家の認定と同時に、こういった危ない空き家を放置しないで済むようにしていかなければいけない。国の国土審議会の土地利用分科会企画会というところの委員をしています。今進めているのは、まさにこれからどんどん空き家が増えていく、放置される土地が増えていく、持ち主がわからない、そこに住んでいない、相続の問題があって誰とどう話していいかわからない、というようなものができてきて、2040年には3軒に1軒が空き家になるんじゃないかっていう国の統計も出ています。国も、国の法律として、例えば、転々とまばらにある空き家を片寄して、空いたところを新たに使えるような行政への権限を持たせようというようなことまで、実は今、検討しています。</p> <p>この空き家の問題というのはこれからますます深刻な課題になってきますので、行政としましても、しっかり向き合っていきたいし、新しい家を建てるというよりもリフォームして住んだり、土地が余る、家が余るっていう時代になりますから、一つの考え方として、例えば市営住宅なんかでもですね、もう新たな市営住宅は造らない、その代わりに、町中に開いた空き家、マンション、アパート、これらを行政が家賃の補助をするような形で入っていただいて、民間の人たちに使っていただくというような方向性をすでに出しています。</p> <p>島田は、合併を重ねながら、物によっては3倍公共施設を持っています。これをずっと持ち続けると、昭和40年代から50年代の初めに、一気に高度成長でいろんな施設ができたものが、いっぺんに老朽化してきます。ですから、長寿命化しながら、その老朽化して建て替えたり壊したりする時期を少しずつ平準化していけるような、そういったことも併せながらですね、適正化を図っていかなければならないと、そういう時代になってきています。</p>
6	<p>■ブロック塀について 大規模地震がありましたよね、熊本の関係で改めてですね、コンクリートのブロックの塀が、倒壊するじゃないかと、子供が通うところだとか、そういったところのブロック塀をもし直したり壊したりすると、補助金が出ますか。</p>	<p>●生け垣にすれば出ます。生け垣にするのか、他の塀でも同じくらいの補助率を出すのかっていうのは、これからの課題として、今日、ご提案いただきましたから、少し私の方でも検討はしますけれども、ブロック塀が危ないことは十分承知していて、それを改善していく方策は持っています。</p>
7	<p>■雇用対策について 市長が人口減って言っていますが、働く場所をぜひ作っても</p>	<p>●私も、働く場所と住む場所、これがやっぱり若い人たちが住む最低の条件でありますから、働く場所がまだまだ不足しているということは、十分認識をし</p>

らいたい。働くところがなくて、よそへ出て行っちゃって、この宮川町も年寄りばっかになってしまって、そういうことで、仕事場をまず作ってもらいたいというのと、島田市にはハローワークがあります。これが、「地方分権改革に関する一括法」が可決成立しまして、市町が「地方版ハローワーク」を設置して職業紹介ができるようになるということで、身近な市役所に行けば若者や女性に手厚い職業紹介とか、この法律に基づいて島田市の実情に応じた取り組みを、市長はどのように考えてますか。

ています。一方で、大学を出た学生さんたちが製造業で働くかっていうと、これもなかなか難しいのが現実です。大学を出た人たちが帰ってこないのは、大学を出た人たちが働きたい事務系だとか IT 関係だとか、そういった企業がここにはないということも一つだと思います。だとしたら、ここからよそに働きに行ってもらってもいいから、住む場所として選んでもらえる町になることも一つです。今、金谷インター周辺の内陸フロンティアのところで、大規模な工場を誘致できるような工業団地を造りたいということの一つ思っています。それから、国道 473 と新東名が交わるところに、にぎわい交流拠点というものを造りたいと思っております。これは、観光客やそういった方たちも併せて滞在し、お金を落としてもらい、雇用を生み出す場をつくりたいと思っております。それから、金中跡地と言って、金谷の台地の上になりますが、5.5ヘクタールの土地があります。これも、メッセを建てるとか、いろいろな紆余曲折がありましたけれども、あれを整地するために、すでに補助金をもらっておりまして、今更売るとか、そういうことができない土地になっております。ですから、県との協議の中で、最初のお約束は、土地を島田市が用意して、上物は県が造るということでしたが、今は、県がそれだけの余力がないということであれば、島田市の土地の上に民間の力で、あそこに空港の拠点の地域振興に繋がる、インバウンドしてくるお客様たちの観光客を受けいられるような拠点、地域振興に繋がる拠点、それからもう一つ、お茶の文化、情報発信拠点ということで、施設をあそこに造るといったコンセプトの中で、今、県と協議をしていて、28年度中に事業計画を立て、事業コンペまで持って行きたいなというふうにそこも思っています。こうしたことを合わせながら、新たな雇用を生み出し、初倉地域にも、実は工業団地を予定しております。来たいという企業はいくつも手を挙げています。ただ、場所が今ないというところですから、そこをきちっとやっていきたいと思っております。

それから、地方版のハローワークの提案もありがとうございます。私自身も、法律の改正でこういうことができることはよく知っております。ただ、島田のハローワークは、市役所とわずかしが離れていないものですから、単なるハローワークを市役所に造るといったのはなかなか難しいと思っておりますけれども、例えば、子育て中のお母さんたちが子育ての様々な支援を受けに、あるいは、子育てコンシェルジュと話をしにきますから、そういう時に子育て中の人ができるような仕事とか、少し手があいたから何かしたいっていうような、そういったことがワンストップでできるような場所、こういったことは特色を持ってやれることの一つだと思いますから、検討させていただきたいなと思っております。今、「しまだのおしごと」というポータルサイトがあって、単なる仕事を紹介するだけではなくて、島田には、どういう人たちが住んでいてどういう魅力があ

		<p>って、どういう歴史や文化を持っているのかっていうことを全部ご紹介した中で、例えば、六合っていう地域を押せば、今求人募集をしている会社が全部出てきて、どういう仕事があるのか、あるいは、仕事で介護の仕事をしたいなら、介護で調べてもらえば、島田の中で介護の仕事はこういう仕事がありますっていうものが全部出るような、そういったものも、この4月から実際にやっております。若い人たちは、こういったものを使って仕事を見つけてもらえばいいと思っておりますし、産業支援センターというのも4月12日に、しましんの向かい側に島田の公的機関としてオープンしました。これは、地場産業に体力をつけてもらって、1社1人でも多くの雇用を生み出して、やっぱり島田の産業構造を力強く元気にするために、こういったものもやっているわけです。企業誘致、そしてまた、働く場の確保というものをこれからも進めながらやっていかなければならない。ただ、私の子供もそうです、皆さんのお子さんもそういう方もいらっしゃると思うんですけども、結局、この町に若い人がいなくなったのは自分の子供が戻ってきてないからなんです。だから、自分の子供がやっぱり戻れない町に、どこの子供を連れでくるんだっていう話でもあるわけですよ。学校も、小規模化していった大変だっていう時に、ここの学校は地域の拠点だから絶対に潰すなって、そんな話をしていないうちからそういう話が出ます。だけれども、それだって、そうおっしゃってくださる地域の方々の息子さんや娘さんが帰ってきてないから、今、現状がそうなっていくわけですよ。だから、我が子たちが戻ってこれる島田を作っていかなければならないということはすごく思います。そのための施策を、これからもいろいろやらせていただきたいと思っています。ハローワークの様々な形で、移住者支援もそうですし、移住定住のサイトの方には、その仕事と合わせてやることを、今やっています。それから、島田市に県外から引っ越して来てくださる方には、120万円まで家を建てるということでの補助金、それから、しばらくの間、東京へ通うっていうなら、新幹線代の通勤の手当、駅に車を置いて出勤するっていうなら、その駐車場のお金等も見ると、そういった支援のメニューも作って、できる限り若い人たちが移り住んでくれるような施策をうってきています。</p> <p>とにかく、働く場所と住む所だと思っていますので、そこは、徹底して参りたいと思っています。</p>
8	<p>■浜岡原発について 浜岡の原発については、市長は、再稼働については市民の意見を尊重するっていうことですよ。そうは言っても、原発の再稼働は訴訟で司法判断をしているところもある。市長におかれては、今、核燃料が保管されてい</p>	<p>●先日の新聞には、住民の意思を尊重すると、その中には、住民投票もありうるというようなことを書きましたけれども、別の新聞報道には、島田の染谷は、今後再稼働は一切認めないということで書かれています。それは、私自身が、そのように記者に答えているからです。再稼働を今後一切認めないと私が判断する理由の一つは、ここ5年間、浜岡が動いていなくて、電力は足りています。</p>

る、そこへ大規模地震がきたらどうだろうということもありますので、慎重に対応するよう要請したいということです。3市の市長さんたちが定例会をやるっていうのを承知していますけれども、新聞で見ると、ちょっとニュアンスが違うんじゃないかと。藤枝の市長さんと焼津の市長さんと染谷市長と、どうもベクトルがずれてるようにとれるということで、せめて共通の行動ができるようにしてもらいたいという要望が出ています。それから、先の御前崎町長選挙で、原発再稼働が争点にならなかった。市議選での無効投票は少なく、市長選では無効投票が多くてですね、しかもその無効投票の中にいろいろ書いてあるっていうんですね。内容は私は知りませんが、市長がどういうふうに判断をしましたかっていうその報道を市長も知ってるかと思います。

私は原発から2キロくらいの海岸沿いの開発行為をやったんですけれども、その時に、当時は浜岡町ですけども、役所に行きましたが、原発一色で、原発ありきの話です。我々が話をしたって全然聞く耳を持たない。そういうときに決められた文章っていうのは本当に果たして有効かなって私自身はそう考えています。いずれにしても、西原さんは議会で原発を容認しないって言ってますよね。染谷市長もできたらそれくらいやってもらいたいわけです。

その事実もあります。それから、原発の周辺から避難を開始するという避難計画、っていうことはですね、一番原発に近いところから逃げるんです。御前崎が逃げて、牧之原が逃げて、吉田が逃げて、みんな多分、島田の方に逃げてくるんです。その人たちが逃げてから島田が逃げるという県の計画になっている。こんなの絶対現実的ではないわけですから、こういった避難計画の中では地域住民が速やかに避難できるかどうか、非常に疑わしいと思っていますし、使用済みの核燃料の処理方法が確立されていないっていうことも現実です。3.11のときに福島原発がああいうことになりましたけれども、あれは本当に津波だけで、そうだったんでしょうか。地震だけでも、もしかしたら、配管が壊れて、電気があったとしてもああいうことになったかもしれません。その検証だって十分に済んでいないんです。ましてや、活断層の問題もごさいます。全国の原子力発電所のことを決めていくのは国だと思っています。しかし、浜岡原発のことは地元の首長として、私は、原発の再稼働は認められないと思っています。それから、3市の首長の言うことが少しずつずれているんじゃないかというかもしれないんですが、中には自民党の党員の首長もいます。国の自民党の方針というのがあります。そこのあたりが難しいところなんだと思います。しかしながら、UPZ、原発から31キロ圏内にある11の市町の中の地元4市という、掛川、御前崎、牧之原、菊川、この四つを除いた5市2町は、みんないろいろな差はあっても、決まったことはみんなで必ず守ろうっていう約束をしています。そのために今、安全協定というものの最後の大詰めのところに来ています。最初、1年くらいでできると思っていたものを、足掛け3年もかけて、事前了解をどう担保するかとか、そういうことにすごく細かく言い争うほどの議論をしながらやってるんです。最初にみんなで約束したことは、決まった事はしっかり守るということを前提でやっています。多少ニュアンスが違うと思うことがあるかと思いますが、5市2町の首長は、安全協定がしっかり決まれば、これに向けて一糸乱れぬ行動をしていくということで私は理解していますし、必ずそうなると思っています。もちろん、首長たちが全員納得して決めていくことが大事だと思いますけれども、でも、地元の御前崎はやっぱり地元の経済ということがあって、危険だっていうことは十分住民もわかっている、だけど、あれがないと食べていけないっていう現実もあって、推進派の人たちも実際にはいます。で、反対票に投じることができなかった人たちは白票を入れたかもしれません。そこに理由も細かく書いたかもしれません。もちろん、そういう人たちがいるというのも現実だし、御前崎が原発なしに産業は成り立たないっていうのもきつと、それはそれで現実なんですよ。だから、大変難しいところですが、地元4市は、御前崎が推進派で、牧之原は核廃絶で、そういう状況ですから、今、また新たに安全

		<p>協定を地元の4市が結べるような状況ではないんです。今ある地元4市の安全協定は、浜岡原発ができた時の安全協定で、こういった事故のことは全く想定していないんです。ネジー一本替えます、新しい設備を付けます、それらを事前了解しますっていう、そういう内容の安全協定なんです。だけれども、ネジー一本替えるのに事前了解がいるのに、再稼働に事前了解がいらぬはずがないって私は思っています。</p>
<p>9</p>	<p>■お茶文化活動について 市民の中から、特に私の友達は農業をやっているわけですが、茶農家の生葉の価格が全然上がらない。島田の山間部では、放置された茶園がものすごく見られる。なぜJAは、こぞってこの価格維持に、例えば伊藤園さんとか、大規模にペットボトルやっている人たちに生葉をもっと高く買ってこないかという活動をやらないかと。今に茶農家がなくなってしまうよと、そういうことを言っていました。お茶シッカリ活動も、これは販売業者の活動で農家のためにならぬという陰口を言っている人がいます。</p>	<p>●緑茶化計画は、シティープロモーションでやっています。つまり、島田は緑茶の町ですよという、このブランドイメージを作るということを通して、海外に向けては売れるお茶を、そして、日本国内については、実はこんなに毎日緑茶を飲んでいるところは少ないんですよ。番茶だったりほうじ茶だったり水だったりですね、我々のお茶へのこだわりって言うのを全国に発信して島田のブランド力につなげ、またここにきてくれるお客様を増やしていこうと、そういう目的です。茶葉の価格が上がらないのは、ある意味、需要と供給のバランスが大きく崩れているからです。少しずつ取り戻してはきてますけれども、だいたい、採れる量8万トンに対して売れる量は6万トン、そしてまた、いいお茶を急須で入れて飲む、そういう層の人たちがどんどん減ってきている。若い人達はペットボトルしか飲まない、家には急須も無い、と言うような家庭が増えてきて、茶葉の消費が伸び悩んでいる。そうした中で、今年もすごくいいお茶ができたんですよ、本当にいいお茶ができたにもかかわらず、値段が上がらなかつた。5年前の3.11の後は風評被害だの何だのっていろいろ言われました。凍霜害被害もありました。だけど、去年と今年は凍霜害の被害もなく、風評被害がそんなに言われなくても、お茶の値段はそんなに上がらなかつたんです。農協も、前年度の在庫が沢山あるっていう中、一昨年までは全量買取していましたが、全量買取もなくなりまして。大変に、農協も厳しい、生き残りをかけた時代です。逆に、農協はこれまで補助金漬けだったことが問題だったんだっていうことまで言うぐらいになってきているんです。その時に、我々が販売業者の方の活動を助けて、生産者を助けてないっていうお話が今出たけれども、逆にこれまでは、生産者の方にばかり国の政策も、市の政策も、県の政策もいってたんです。耕作放棄地を戻せばいくらとか、肥料代にいくらだとかっていうように、生産者に向けてやってきたんですね。でも、いくら生産者を応援しても、売れるところが確保できなければお茶の値段は上がりません。今、お茶が売れる状態を作らないと茶葉の価格も上がっていかないという中で、今までは生産者の方にかなり重点的にやってきた政策を生産者とお茶屋さんセットにしながら今やっているという状況になってきています。お茶はやっぱり、この町の大きな産業です。ですから、このお茶の価格の低迷を何とか抜け出したい、3.11の後、</p>

		<p>実はお茶の相場を決めるのも鹿児島の方に取られてしまいました。やっぱりこういったものを取り戻さなければならぬし、新茶の時期を争うんだったら鹿児島に負けるに決まってるんですよ。うちは、いいお茶を作っておいしいお茶で勝負しなければだめなんですよ。やっぱり、そういうところもしっかり、どういこうところが売りなのか、いいお茶を作ってどこに売るのがかっていうところも決めていかなきゃいけないし、日本の中での消費はどんどんどんどん減る一方です。お茶を沢山飲む人たちが少なくなってきましたから、だとしたら、世界的には今、ものすごくお茶のブームですから、このお茶のブームに乗れるように輸出に向けられるお茶も作っていかなければならない。だけど、これは農業規制がとても厳しい、オーガニックじゃないと売れない、オーガニックにするには3年、農薬や肥料を除去しないとオーガニックのお茶ができない。その3年をどう保証するんだってというような話です。オーガニックになるまでの3年間は、一応、葉っぱが取れるものですから、国はなかなかそういう支援をしてくれません。そこを、どういうふうに支援できるかということ、今、一生懸命やっているところでもあります。</p>
<p>10</p>	<p>■納税などについて まじめに市民税や固定資産税を納めている方がいるが、どうも滞納者がいるということで、その現状と対策を聞きたい。学校給食も滞納者がいて、問題になりましたよね。今はそういう人がいなくなったのですか。</p>	<p>●実はですね、いろいろな理由があって今年の3月末現在で市税全体の収入率は95.34%です。しかしこれは、県内でもトップクラス、ベスト3に入る収入率です。島田市は、だいたいベスト3に入るほどの収入率をもって納めていただく努力をしている、その中で、私として、はやっぱり真面目に働いて、ちゃんと納めてくださってる方もいるわけですから、まさに公正公平という意味では払うべき人にはしっかりと払ってもらわなければいけないと思っています。給食費の滞納の方ですけれども、27年度は、34世帯が滞納をしております。収納率が99.74%です。本当に給食費を払えない方には、就学援助費ですとか、生活保護とか、いろいろな手当がございます。ですから、払える人が払ってないと思っていますから、これはしっかり払っていただく努力をしていますが、ある日突然行方不明になってしまったり、県外や他市へ引っ越してしまう。そして、居所がわからなくなるっていうことがあるものですから、こういった結果になりますが、収納の努力というのは本当に一生懸命しているところです。収納率も、わずかずつですが、年々上げてきております。ご理解をいただければありがたいなというふうに思っています。少し余談になりますけれども、議会などでは給食費をタダにしたらいじゃないかというような話も出ます。給食費は、材料費しかもらっていません。調理器具だとか、人件費だとか、光熱費も含めて行政が全部出しています。材料費だけしかもらってないですけれども、その材料費は年間に4億円を超えます。この4億円を無料にすれば、その4億円でできる事業は、ものすごくあります。そうすると、給食費をタダにすることが本当にい</p>

		<p>いのかということも実は、市民の皆さんの中で議論すべきことなんだと思うんですね。子供の医療費も500円をいただいています。市民税が無税の方からはもらっていません。タダにするっていうサービスの競い合いもあります。でも、それをタダにするためには、またさらにあと8,000万円、全体で5億円くらいの子供医療費がかかることとなります。そうした中で、全部タダにすることによって、薬を買ってあげるよりも病院に連れていった方が安いわけですよ。これがやっぱり、お医者様を疲弊させる一つの原因になっている、そしてまたもう一つは、親を育てるという意味で島田市は、親育てにすごく力を入れてます。親が親になるための施策を一生懸命やっています。ぜひ、そういったところもご理解いただきたいと思います。</p>
11	<p>■誕生の木について 今、新生児にバラを一本ずつあげてますよね。ちょっと噂で聞いたんですけども、市議会でも、来年度から廃止したいというようなことを聞いているんですけども、去年はバラサミットを島田市でやって、バラを広げようという町でありながら、廃止っていうのはちょっとおかしいような気がしたんですけど。</p>	<p>●廃止は、全く考えておりません。議会からも、まだそういう話が私の耳には入っていないですけども、新生児に、島田の木としてバラを送っているということはこれまでも続けてきましたし、これからも続けていきます。</p>
12	<p>■医師の往診について 今すぐのことではないんですけども、これから先10年とか経って自分のこととなってくると思うんですけども、高齢化ということで、今はお医者さんに行けますけれども、往診というか、市内では往診してくれる先生が決められてるって聞いたんですが、そうなんですか。 家族も核家族になっていって、老人だけになって家族がいなくていう方が多くなると思うんですけど、自分も年をとると、近くでも通えなくなるということが起きてくると思うんですけども、やっぱり近くで往診してもらえっていうことができないというのは不安になってくるんです。</p>	<p>●決められてはいません。ただ、お医者様が往診をしてくださる先生と、してくださらない先生がいます。先生が決めております。医師会との連携や診療所さんとの連携もとても大事ですので、3ヶ月に一度は医師会の会長さんと会って、情報交換もし、医師会からの要望等も聞いて、この往診の話や予防接種の話やいろんな話をしておりますが、往診については、行政が決めているのではなくて、やっていただける先生にお願いをしているという状況です。 治療中であれば、24時間訪問看護もあります。それから、島田市は、一人暮らしのご高齢の方で、何かあったら不安だよっていう方たちに、首からぶら下げて何かあったらすぐボタンを押してもらえよう、そういったものもやっています。それ以外に、安否確認をしている一人暮らしの方が約500人おります。この500人の方たちには毎週必ず職員が電話をして、もし連絡がつかない時には、20分以内にその人のお宅まで行ける体制を行政と民生委員と地元の方との連携の中で持っています。時々、トイレの中で倒れていたり、戸にはさまってしまったり、いろんなことがあるものですから、安否確認をして、困っていることは無いか、体調はどうかって言う事を聞いたりしています。 これから、地域の中で行政任せだけではできないことがいっぱい増えていくと思うんです。去年も、例えば熱中症がすごく心配で保健師の人たちもみんな回って高齢者を見てくれました。でも、エアコンを使ってねって言ってたん</p>

だけど、設定が暖房だったとか、設定が 33 度だったとか、あるいは、中にはエアコンのスイッチを入れたらテレビがついちゃったよというような人もいて、本当に行政だけでやることには限りがあります。そうした中で、地域で見守る体制を作っていかなければならないし、これから、市の中でもその地域ごとによってそこにどういう人たちがいて、どういうことができるかっていうことで、差がつく時代になってきています。ぜひ自分の地域のために自分たちに何ができるんだらうっていうようなこと、そして行政と一緒に手を携えてやることを考えていきたいと思います。例えば、週に 1 回でもご高齢の方たちにお弁当を届けてくれて、ついでに話し相手になって安否確認をしてくださるなら、そういう補助金を市は出します。

それから、放課後児童クラブを、湯日小学校という小さな学校ですけれども、小学校 1、2 年生で、放課後児童クラブに子供を送りたい、でも、湯日小は小さくて放課後児童クラブが無いです。一番近いところは初倉南小学校というところで 5 キロ離れてます。ちょっと歩かせるには何だって言う時に大変困りました。でも、地元の方たちが、自分たちがボランティアで送るよって言ってきて、ローテーションを組んで、今その子供たちを学校まで送ってくださってます。行政は、ガソリン代、そして少しの手当を払ってお願いをしています。そんな風に、地域がやれること、自分たちの地域課題の解決のために何ができるかっていうようなことをやっぱり考えていく、そして一緒に信頼関係を持って携えてやっていくことが大事だと思っています。私も、市の職員にもいつも言っています。島田市役所は、都市経営をする会社なんです。だったら、今までと同じ意識では、これからの都市経営の会社は成り立っていきません。スピード感もそうですし、市民のニーズもそうですし、言葉遣い一つとってもそうです。そして、職員はちゃんとしっかり皆さんのところに出て行って、地域課題というものに向き合いながら、地域の中でもどういった政策がこれからは必要なのかというのが、当然現場から出てくるわけです。そういうことのやりとりもこれからの時代は大事になります。ですから、行政は 10 年先 20 年先を見据えた事業を進めると同時に、本当にここに暮らしていてよかった、島田は暮らしやすいところだよっていうことを実感していただけるような施策をうつために、地元と行政はもっともっとつき合っていかなければならないと思っています。余談ですけども、島田は県内で一番離婚率の少ない町です。ここに住めば、離婚が少ない、それから、軽犯罪率が、年によって違いますが、一番少ないか下から 2 番目のどっちかです。持家率も、一位二位を常に争うという状況です。これだけ考えただけでも住みやすいところだと思います。

13	<p>■隣地の木について</p> <p>宮川町の防災倉庫の広場に隣の木がかぶさってきてしまっているんです。かなり前からなんです、どうしたらいいんでしょうか。切ってくれて言ってもなかなか切ってくれないんです。</p> <p>市の職員が、町内の方がボランティアで切ってくれば、市の責任で片付けますよということを書いてくれて、私と一緒に訪問したけれども、話がつかなくて困っているというところなんです。</p>	<p>●地域から上がってくる要望書の中にも、民地の問題がすごく入っております。でも、これはなかなか行政も難しいですところ。一緒に行って、お願いすることはできますけれども、勝手に切ってしまったら所有権の問題があって、行政が訴えられるというところもあるものですから、一緒に行くと言ったお手伝いはこれからもします。</p>
14	<p>■川ざらいについて</p> <p>市でやってくださいよってお願いをして断られたっていうことがあるのですが、これはまた要望書で出したいと思っています。向島町と宮川町との境のところ、人の背丈ぐらいの水路があって、出すに出せない。隣組が分散しているので三軒でやれと言ってもとても無理なんです。そういう事情を説明したんですけど、市はできないって一点張りだったので、だいぶ高齢化して、無理なところがあるっていうのをわかってもらいたいの、これは文書で出します。</p>	<p>●特に回答なし</p>
15	<p>■福祉避難所について</p> <p>大規模災害の時に市と協定をした福祉避難所が19施設はありと市長が答えて私は安心しました。ただ、5月14日に福祉の会では、島田市と協定しているところは今のところないと言ったんですよ。市の職員が。市の職員をいじめるわけではないが、まじめに聞いている我々は、それは困ったことだと、市長が来るなら、そのところを正そうじゃないかと。</p>	<p>●本当に申し訳なく思います。情報がキチッと、市の職員一人一人のところまで、特に担当で地域に行き話す人がそういう状況では、本当に困るわけで、申し訳なく思います。またきちっと指導もさせていただきます。福祉避難所は、この近隣よりも、はるかに多い場所は確保しています。ただこれで十分というわけではありませんので、今後もしっかり協定を結びながら様々な意味で大規模災害に備えていきたいと思っています。それから、大規模災害よりもっと頻繁に起こる毎年の台風だとか、大雨だとか、こういうことの避難勧告等ですね、大規模地震の時に逃げる避難所と、大雨の時に逃げる場所は違っていいと思っています。こういった公民館のようなところに集まる方が、大雨の時の災害は、逃げる人も少ないですし、情報も取れますし、臨機応変に避難する場所を考えるということも必要なことと思っています。</p>
16	<p>■水力発電について</p> <p>伊太谷川沿いに散歩するんです。以前、山梨だと思うんですが、小さな沢で発電していたんですよ。あの程度のところで発電できるんだと、こう思って、伊太谷川を見ると、これだけの水量があって落差があると、市でもタダで電気をつくれるんじゃないかと思っているんですが、そういうようなことは全く</p>	<p>●伊太谷川も含めてですね、島田は再生可能エネルギーでは最先地です。太陽光、それから水力発電、それからバイオマス、川根温泉のメタンガスでも発電を始めていきます。そういった意味で、再生可能なエネルギーとしては、他市から視察が来るほど最先端ではありますが、小規模な伊太谷川や大津谷川で発電するには、水利権だとか川の占有許可の問題があって、なかなか誰でも自由にできるわけではない。小規模な水力発電のことも、大井川土地改良区がまた新た</p>

<p>考えていないんでしょうね。</p>	<p>にやろうとしていますし、少しずつ考えていこうということになっていくと思います。発電をした後の電気を誰が使うのかということが、すごく大事なことです。</p> <p>《真鍋危機管理部長より回答》 伊太谷川の発電は、実はもうやってます。その恩恵を、別の財源といいますか、財政的な面で恩恵を受けています。</p>
----------------------	---

※番号 1-1 及び 16（一部）については真鍋危機管理部長から回答し、それ以外の回答はすべて市長から回答した。

④その他（市長から）

・市長になって3年になるといいましたが、市長になったときに30のお約束を皆さんとしました。その30のお約束が、今どの程度の進捗状況なのかということをごホームページ上で発表しております。30のうち、継続中のものが二つあります。未着手は0。すでに実施しているもの、完了しているものを合わせて実施率93.3%ということですが、それぞれの施策にこの3年間どんなことをやってきたということを細かく書かれています。そして、後ろの方には、今年度、それらの施策にどのくらいの予算をつけているかということも出ています。市のホームページでも見ていただけますし、市役所の1階の閲覧の場所でも見ていただけます。各公民館でも見ていただけますので、是非こんなものも見ていただいて、こんなことをやっているのかということを知っていただければありがたいと思います。

⑤当日の様子

